

## 平成21年度小牧市休日急病診療所運営協議会

【日時】平成21年8月7日（金曜日）

午後2時～午後3時20分

【場所】保健センター 大会議室

【出席者】

《委員》船橋重喜、友松 武、菱田直基、平尾亮人、舟橋國博、酒井義仁、  
福澤 広、宮澤孝彦、村上秀斎、小川清春（消防長代理消防副署長）、  
西川昌登

《事務局》舟橋次長、市民病院事務局沖本次長、江崎所長、山中補佐、  
佐橋係長、山中主査

【議事録】

あいさつ

舟橋次長

新型インフルエンザについて、8月15日号の広報に併せて回覧で周知する  
予定となっています。

平成20年度の監査で指摘を受けました。市民病院との連携を強化し役割分担  
を明確にする、利用者へのPR、委託元としての経営や運営状況をとらえた  
マネジメントの実施、の3点の指摘がありました。

経営改善について、を議題としてとりあげたので議論を賜りたいと思います。

会 長

今年度の会議は例年とは赴きを変える必要があります。厳しい不況の中、市の  
財政状況も厳しいものと認識しています。休診1日で30万円ほどの赤字で続け  
ていく事が市民にとってよいのかと感じています。

外科も1日に3・4人しか来ないこともあります。医師1人、看護師、事務員  
といて、例えば、それを市内の医療機関にお願いするとか、所長手当の見直し  
とか、具体的なことを含めてできるところまでご意見をいただきたいと思いま  
す。

### 3 報告

#### (1) 平成20年度小牧市休日急病診療所事業報告について

##### ① 診療状況について

(報告者) 事務局

平尾委員

酒井委員

##### ② 収支状況について

(報告者) 事務局

### 4 議題

#### (1) 小牧市休日急病診療所の経営改善について

(報告者) 事務局

### 質疑応答

委員 市民病院が休診より外科は少ないが何かあるのですか。

事務局 外科にかかった数字をだしただけなので休診との関係は確認していません。

委員 外科だけでも当直は組まれているわけですね。休診の患者が全て市民病院に回っても問題ないですか。

事務局 救急車で来る患者を対応していますが月に500台位は来ます。外科症状による簡単な傷なら休診で対応して欲しいとドクターからはいられています。

委員 患者は休日急病診療所がある場所を知らないなので、市民病院が有名

なのでそちらへ行ってしまわないですか。  
もっと休診のPRが必要なのではないのでしょうか。

事務局 PRとしては、現在ホームページや広報に掲載しています。  
平成21年2月以降は市民病院救急の玄関に症状の軽い患者は休診に行ってもらおうよう案内看板を設置しました。場所のPRは進めていきたいと思います。

委員 増収増益ということであれば、歯科は肩身が狭い。一方、現体制を減らすことは困難と考えています。市として休診の経営改善に対してどういった考え方をもっているのですか。

事務局 市民が急病になったときに一次医療機関として診療の確保を第一と考えています。公的な医療機関であっても、他市と比べても赤字が広がっています。黒字までは考えていませんが、赤字幅を減らす努力をしていく必要がある、という考えを持っています。

委員 明確な方針でどこまでの削減をということではなく、この場で議論いただきたいと思います。事務局の説明にもあったとおり利用者数が減っているにもかかわらず市の持ち出し額が増えています。考え方として、利用者数が増えているから負担増なら説得力がありますが、逆ならそこを何とかしなければならないという考えであります。一人当たりの市の負担額は平成16年度から20年度では増加しております。他市の状況をみても小牧市は負担が大きい。具体的な削減項目は明示できませんが、総論として、一人当たりの市負担額を平成18年度まで位におさえられないかという一つの目安を持つなどしていかないといけないと考えています。

委員 給与が増えたわけでもないし、経費を増やしたつもりもありません。医師、歯科衛生士、事務員の人数は減らす事はできません。事務員を増やすうにいわれたので増額となっていると思います。

委員 小牧市と犬山市は人口は倍ほど違うが内科の受診者数が逆だが、小児科が内科に含まれているとしても犬山が多い。他に受診できる医院があるとか、小牧市民病院があるからなのか、犬山市がPRをしっかりとしているからなのか、状況がちがう何か原因があるのですか。

委員 市民病院にどこまで流れているかわかりませんが638名の内266名が一次で休診の時間帯の人となっている。すべての患者とまではいわないが、ある程度休診で対応できるのではないのでしょうか。その観点から、市民病院と休診の役割分担、消防との連携も考えていかなければならないと思います。

委員 固定経費は必ずあるもので、需要の発掘を考えた方がいいと思います。

委員 患者数を増やすには、特に休診は日替わりで医師が交代するため、患者に対するサービスの向上という姿勢が必要です。土曜日の診察時には、何かあったら日曜日は休診に行くように話していますが、そういう姿勢を統一するといいますが、医師会として質の向上はなかなか難しいと思われま。患者対応をいかによくするかを抜きにしては考えられません。例えば一日の投薬量を3日分に増やすなど改善できないでしょうか。

委員 市民病院救急の前に掲げた看板は病院の本音ですか。

事務局 一次の患者については、休診に行つて欲しいと強く望んでいます。

委員 市民病院としてそれが本音でしょうが、実態として患者は市民病院の前まで来て、休診へ行こうと思えないので、その前の段階で市民の意識レベルを休診があるということをきちんと周知徹底していくことが必要だと思います。

委員 月曜日に外来をやって、金曜日から熱があったという患者にどうして病院にかからなかったか聞くと、どこもやっていない、休診を知っていてもどこにあるか知らないといわれる。たとえば保健センターで行っている子供の健診の時などにもっとPRできるのではないのでしょうか。また、レセプトの請求など細かい経費も見直しできるものがあるのではないですか。それから、午前中に患者が多く、凡そ6割、午後は4割となっており、看護師など午前と午後の体制の見直しもできるのではないのでしょうか。

委員 歯科の事務費の増加は、県からの指導で内科と歯科の双方でレセ請求を電子化しないとダメだと言われて、事務員を増加した経緯があります。それより、ほとんど使っていない医療機器の保守点検料などを減らせないですか。業者の言うがままに、点検しているのではないですか。これまで、予算としてみてもらっているため、特に何も言って来なかったが、この部分に見直し・削減できるところがあるのではないのでしょうか。

会長 今後また、それぞれの部署で検討していただいて再度協議したいと思います。

## (2) 今後の新型インフルエンザの対応について

- ①小牧市休日急病診療所の経営改善について  
(報告者) 事務局

質疑応答

委 員 9月に学校がはじまると集団発生となるのではないですか。秋～冬にインフルエンザの季節もきます。今は急な事だったので処置室を待合室に利用しています。今後大量に患者が殺到した時の対応を決めておかないといけないと思います。個人的には保健センターで対応できないかと思います。医者も1人では対応できないかもしれません。

事務局 新型インフルエンザの患者が休日に保健センターで診てもらって、その患者が別の日に用事で来たときに心情としてどうなのかとは思いますが。保健センターを利用するという事は一つの案としてお聞きしておきます。

委 員 保健センターを利用する事に関しては、診療所としての届出をだしてあるので可能だと思います。

会 長 その他にありませんか。  
意見もないようですのでこれで休日急病診療所運営協議会を終了します。